

大会長挨拶



第20回 新潟医療福祉学会学術集会
大会長 大山 峰生
(新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部
作業療法学科 学科長・教授)

新潟医療福祉学会は、新潟医療福祉大学をはじめとした新潟県内の健康と医療福祉に関わる専門職の人たちの研鑽の場として、また地域密着の学会として、本学の開学とともに設立されました。その後は、スポーツ領域が加わることにより、保健・医療・福祉・スポーツにまたがる学際的な学会として発展し、今年度は第20回という節目の学術集会を迎えることとなりました。こうした経緯の下、本学術集会では例年以上に盛大に開催する方法を模索して参りましたが、今年は世界中で新型コロナウイルスの感染が拡大し、現在は収束の見込みも立たない状況となり、誠に遺憾ではありますが、感染拡大防止の観点から、止む無くWebと誌上での開催を決断致しました。しかし、開催形式こそ変更となりますが、本学術集会では本学会の設立趣旨やこれまでの20年を振り返るとともに、本学会がこれから取り組むべき課題を提起するような学術集会にしたいと考えています。

今回の学術集会のテーマは「健康寿命の延伸に向けた専門職連携の発展」と致しました。健康寿命とは、「人の寿命において健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義されています。わが国では「2025年問題」が目前に迫り、医療、介護、福祉の需要が爆発的に高まることが明白になっており、高齢者を支える人口が減少している日本の将来において良質な医療、介護を効率的に提供する取り組みを進めることが必要となります。更に、人びとの健康寿命を延伸させ、QOLを向上させることが大きな課題と考えられます。そこで本学術集会では、健康寿命を延伸するための専門職連携に焦点を当て、特別講演には多職種連携による認知症の地域包括ケアをテーマに新潟医療福祉大学学長の西澤正豊先生にWeb講演をお願い致しました。西澤先生は神経変性疾患の病態や発生機序ならびに認知症に関する研究の第一人者であられ、認知機能の維持について、また認知症に対し専門職がどのように地域で支援すべきかについてお話し頂きます。またシンポジウムにおいては、健康寿命の延伸に対する取り組み－20年のあゆみとこれから－をテーマとして、新潟医療福祉大学理学療法学科の佐藤成登志先生、健康栄養学科の永井徹先生、社会福祉学科の渡邊敏文先生にWeb講演して頂きます。シンポジストの先生方の所属は本学開学からの学科であり、これまでの20年間に健康寿命に対し、専門職としてどのようにして取り組まれてきたかをご講演いただいた後、それぞれのお立場で今後どのように取り組み、連携すべきかについて議論して頂く予定です。一般演題につきましては、誌上での発表とさせて頂くために議論の場は設定できませんが、医療や健康寿命に関する新知見に加え、専門職の連携に関する実践、基礎研究等に関する知識を深めて頂きたく思っています。

2019年の健康寿命の在り方に関する有識者研究会の報告では、2040年までに健康寿命を3年以上延伸させ、男女ともに健康寿命は75歳以上とすることが目標に掲げられました。今後、より一層、保健・医療・福祉・スポーツに関連する専門職に対する社会的な関心や、価値が高まると予想されます。本学術集会が健康寿命を支援する多くの専門職連携の発展のための新たな道標になることを期待すると共に、多くの皆様のご参加をお待ちしております。